

平成30年度学校評価報告書

平成30年 3月28日

次のとおり平成30年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 社会で生きる学力の育成～基礎・基本を確実に身に付け、主体的に学ぶ力を育てる。
- (2) 豊かな心の育成～礼儀・礼法を確実に身に付け、豊かな人間性と社会性を育てる。
- (3) 健やかな身体育成～基礎体力を確実に身に付け、自ら進んで健康の保持増進に努める態度を育てる。
- (4) 進路目標の実現～基礎的・汎用的能力を確実に身に付け、社会的・職業的自立を図る態度を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校運営	・より一層教職員の協働意識を醸成するとともに、分掌及び年次間での連携を図りながら、教育活動を行う必要がある。 ・総合学科の特色を生かした魅力ある学校づくりを推進するため、総合学科の使命や本校の目指す学校像について、教職員の共通理解を深めていく必要がある。	・学校課題の把握に努め、その解決に向けよく取り組んでいる。学校が組織として機能し、教育活動の充実を図るには、教職員間の共通理解が重要である。 ・PTAや地域と十分に連携できている。 ・より一層学校の情報を発信することを期待する。
改善方策	・分掌及び各種委員会の見直しなど、校内体制を整備し、協働体制の確立に努める。また、分掌や年次等で定期的に会議を開催し、業務の進捗状況や課題を共有し、改善に向けた方策を協議する中で、教職員の学校経営への参画意識を深める。	
学習指導	・目指すべき生徒像を具現化するため、系列や教育課程、主体的な科目選択の在り方などについて、不断の見直しを図る必要がある。 ・評価方法の工夫・改善を図るとともに、及び授業評価アンケートを効果的に活用した授業改善を進める必要がある。	・総合学科の特色を生かし、生徒の多様な学びに対応したきめ細かな学習指導が実践されている。 ・より一層授業改善のための取組を推進することを期待する。 ・英語教育の更なる充実を期待する。
改善方策	・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒一人一人の自己実現に必要な確かな学力を身に付けることのできる授業の推進に努める。また、シラバスやCAN-DOリストの活用により、授業の到達目標を具体的に示すとともに、生徒による自己評価を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を充実させる。	
生徒指導 (いじめ問題を含む)	・教職員の共通認識に基づく組織的な生徒指導が行われるよう努める必要がある。 ・教育相談・支援は組織的に行われており、生徒の悩みや個別の課題等について、迅速に対応ができています。 ・いじめの問題に対して、生徒の主体的な取組を推進する必要がある。	・生徒の実態に応じて、きめ細かな個別の対応ができています。 ・いじめの問題を含めて、SNSの適切な使用については、学校だけの指導では、不十分なこともあり、家庭での指導について、今後も協力を強く求めていく必要がある。
改善方策	・教職員の共通認識に立った生徒指導が行われるよう、情報共有及び協働体制の構築に努める。また、生徒の主体的な活動を促し、生徒が自身を律しながら学校生活を送るための生徒指導の充実を図る。	
進路指導 キャリア教育	・「産業社会と人間」と「総合的な学習（探究）の時間」を接続し、3年間を見通した進路シラバスの策定が必要である。 ・「総合的な探究の時間」の実施に向け、これまでの探究活動の見直し、内容の一層の充実を目指す。 ・高大接続改革に向け、校内の指導体制の見直しが必要である。	・生徒や保護者の要望を踏まえた進路指導の実施により、進路実績及び地域の評価が高まっている。 ・時代の変化に対応した望ましい勤労観・職業観を育成する教育活動の充実を期待する。
改善方策	・生徒の進路目標の実現に向け、「産業社会と人間」と「総合的な学習（探究）の時間」の実施内容、指導体制の見直しを行う。 ・高大接続改革に的確に対応できる教職員の資質・能力の向上に向けた研修の充実を図る。	
公表方法	・学校評価の結果を、学校ホームページに掲載するほか、PTA総会や学校評議員会、地域の町内会長が参集する「地域コミュニティートーク」などにおいて公表する。	